

## 「めぐみの」の目指す支援

---

子どもには必ず備わっているその子なりの長所があるものです。

教育とは“教え育むこと”とされていますが、実は“引き出す”という意味もあります。どんな子どもにも必ず備わっているキラリと光るものを見つけ、引き出して伸ばすことが教育の大事な仕事です。

なかなか難しいことですが、少なくともその子の持っている長所が伸びるのを邪魔することになる様な指導は避けるべきです。

そして、教育の次の目標は自ら働いて日々の糧を得るように導いて行く事です。WHOによれば健康を次のように定義しています。「健康とは人を愛し、働くこと」とし、どんな形の働きであっても、その人なりに働くことを大切な要素としています。

NPO法人めぐみのは、幼児期（3歳頃）から成人までを対象として受け入れ、何らかの仕事を通して社会参加を効果的に支援し手引きすることを目的として設立しました。

具体的には、児童発達支援（幼児期）・放課後等デイサービス（就学期）を、社会へ出て行くための基本を身につけるための大切な時期と位置づけています。この時期は、あれもこれもと量的な教育に重きを置くのではなく、内容を限定的にしています。

自己紹介、挨拶、行儀、手洗い・うがい・トイレ（清潔面），“ごめんなさい”・“ありがとう”等を「型」にして指導徹底して行くことは物事を定着させるのに効果的です。「型に入り」「型を出よ」です。型が定着する中で心も伴って育つのです。

また、遊ぶことと楽しむことも心の大切な栄養源となります。遊びの中で第三者との調整能力が育つと言われています。同時に、遊ぶことの中で人知れず育つもう一つの大切なものが“内なる何か”です。

“生きるエネルギー”とも言われるものです。人が社会に有用な存在となるためには身体だけでなく“内なる何か”がどうしても必要となるのです。

この様に意識づけられて育った子どもたちが、10代の中盤以降、社会参加のための旅立ちの最終的な準備に移ることになります。

次のステップは子ども（利用者）たちが社会で生き抜く力をつけるために、一人一人に合わせた支援をしていく事です。社会性の育成、物事をスムーズにするためのコミュニケーションスキル、集団生活を円滑に行うためのルール（時間に遅れない、無断で休まない）の励行は個別に徹底して行います。

又、本人の希望に沿った職場への就職を目指した個別指導を特に大切に考えています。障害に関わらず、子どもたちは一人一人高い可能性を秘めていて、個別指導を通してその可能性を引き出します。その結果、昨年は6名の者が一般就労することができました。これは他の施設に比べて突出した実績です。

そのため、ハローワークや就労支援センター、各企業様との協力体制は不可欠です。

NPO法人“めぐみの”に届いたすずかぜの元利用者のお母様からの手紙の一端をご紹介します。

山下様

約二年間「すずかぜ」で息子Kが大変お世話になり、心よりお礼申し上げます。感謝の気持ちでいっぱいです。

お陰様で十月から株式会社Eで働かせていただき、毎日元気に入社しております。

二年前の九月、偶然通りかかった「すずかぜ」の前を…藁をもすがる思いで勇気を出して飛び込んだことを今でもはっきり覚えています。中学時代は発達障害を理解してもらえず辛い経験をさせてしまい約十年も引きこもっていました。でも今は、安心して社会の空気を吸いながら充実した毎日を過ごしています。これも全て「すずかぜ」で過ごさせていただき、成長させていただいたお陰です。本当に今までお世話になりありがとうございました。

将来的には葛飾、松戸、三郷を結んだ（三角）地域に農業等ができる土地（農園）を確保し、自然の「恵み」や喜びを体感させ社会参加を図る事業展開を進めていきます。

「朴訥だけど、なんかあたたかいいね」そんな支援を目指していきます。

理事長 山下 三成

顧問 大城 豊